

特定非営利活動法人自閉症くらし応援舎 TOUCH

2007年 春号

2007年4月1日発行

目次

TOUCHから	
発行のご挨拶	P1
講演会のご案内	P2
VOIS	P3~4
ご存知ですか	P4
助成・寄付御礼	P4
賛助会員様御礼	P4

発行のご挨拶

花信の候、皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

新年度を迎え、特定非営利活動法人 自閉症くらし応援舎TOUCHも「日中活動の場」が始まり、皆様の温かいご厚情によって新しいスタートを切ることができました。

また、夏冬年2回発行してきた「TOUCH通信」も、春と秋に会員の声をメインにして情報も多少盛り込みながら年4回お届けいたします。

自閉症の人たちと共に生活していく中で、様々な出来事を経験していく会員の様子をより身近に感じていただけたらと思います。

日頃からの、ご協力を感謝申し上げますと共に、今後もより一層のご支援をお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 自閉症くらし応援舎TOUCH

講演会のご案内

自閉症の方のコミュニケーションについて

～講師 児童精神科医 門 眞一郎先生～

日時 2007年6月9日(土)午後1時30分～午後4時30分(開場 午後1時)

会場 ふくふくプラザ1Fホール・601研修室(福岡市中央区荒戸3丁目3-39)

参加費 前売り券 800円 当日券 1000円 (学生500円:購入時学生証提示)

申込み 郵便振込み(当日、振込みの控えをお持ち下さい)

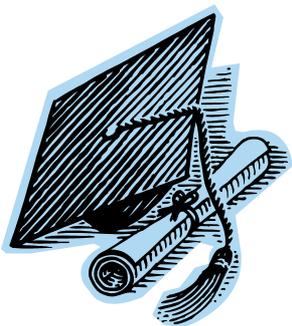
口座番号 01790-0-117757

口座名義 NPO法人 自閉症くらし応援舎 TOUCH

振込期限 2007年5月25日(金)

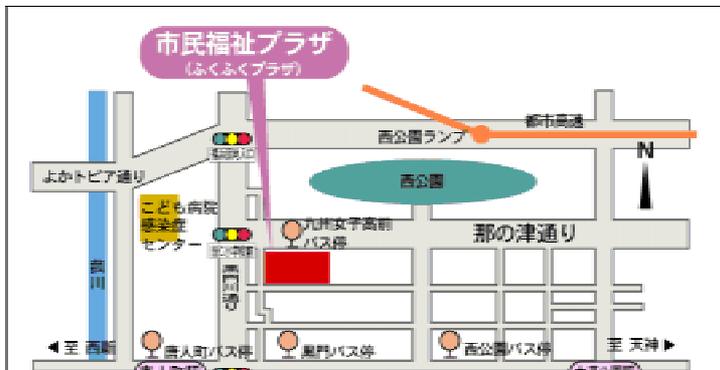
問合せ Tel/Fax 税田:092-582-5244 木下:093-941-5032

主催 特定非営利活動法人 自閉症くらし応援舎 TOUCH(タッチ)



門先生プロフィール

1948年広島市生まれ。1973年京都大学医学部を卒業、1年間大学病院で研修した後、兵庫県立豊岡病院精神科に勤務。その後1980年から1年間ロンドン大学精神医学研究所で児童精神医学を学び、帰国して1981年より京都市児童福祉センターに勤務。現在京都市発達障害者支援センターかがやきセンター長。児童精神科医。専門は、かつては不登校、現在は発達障害。ホームページアドレス
<http://www.conet.np.in/~skode/index.htm>





TOUCHでは会員間の交流や、相談などをメーリングリストで行っています。その中から、いくつかのエッセイをピックアップして皆さんにお届けします。忙しいひと時、ほっと一息つくように、一緒に思いをめぐらせていただければと思います。

自閉症だと理解して関わる

(施設職員)

最近では、自閉症の診断も早期発見・早期療育と言われるようになり、当事者への係わりも本人に合ったものが多くみられるようになってきました。

しかし、私の働いている施設で「自閉症」と言われる方たちは、今とは違い適切な診断が下されず、子どもの頃から「知的障害」として、親や周りの療育者たちに係わりを持たれ、自傷や他害が頻発したり、また別の人は同じ話を繰り返すことから周囲に理解してもらえず、適当に係わりを持たれこだわりを強化したり…。

本人たちの成長過程の中で、自閉症だと理解してもらえないことが、どんなに辛いことだったんだろうかと思います。

どんなときでも何らかのサインを出しているはずだから、それを見逃さずキャッチすることが大切だと思います。

実際に私の担当の方で、ソーシャルストーリーを利用することで、行事や急な変更に対応できたり、PECSを利用することでコミュニケーションの幅を少しづつ広げたり…。

どんなことも、無駄なんて無いのだから、支援員としてこれから多くのことを見逃さず、当事者の方にあった支援ができればと思います

将来問題行動をおこさなくてすむように

(元施設職員)

私は18年あまり成人の入所施設で働いてきました。50名定員と60名定員の二つの施設で勤務しました。両方もかなりの割合で自閉症の方がおられました。自閉症の方がこれだけの大人数の中で毎日生活していくのはなかなか大変で、ストレスを抱えてしまうことが多く、「問題行動」という形で出てきていました。

知的障害の施設では自閉症の方の「問題行動」への対応にどこでも苦労しているようです。もともと施設での生活がストレスフルなものに加えて、自閉症の方への専門性の高い支援の方法を取れないことが大きな原因だと思います。どこの施設も職員は悩みながら支援を高めていこうと努力していると思いますが、現状はまだまだのところが多いようです。

なぜ、施設での支援がうまくいかないのか。その要因の一つに運営上の問題があります。施設の職員は常に人数不足に悩まされています。特に日中の職員数は夜勤や振り休のために50、60名の利用者に対して6、7名ということもあります。感染性の病気が流行り職員も倒れた時など60名の方の支援に5名であたったこともありました。そのような状態になった時に、問題となる行動が起きないような支援を行うということは無理です。常日頃から丁寧に問題となる行動を起こさなくてもすむような支援を行っていく必要があります。

施設でもスケジュールをしっかり入れていくのは重要なことだと思います。

しかし、大人になって入所されてからスケジュールの支援を始めても遅いです。かなり丁寧にスケジュールの導入を行っていかねばいけません。人手不足の中でそこを行っていくのは非常に困難なのです。

小さい時からスケジュールを使って生活していくことで、見通しが持てるようになる。確立されたスケジュールがあれば、施設での生活でもそのスケジュールを用いることで混乱なく過ごすことができると思います。もちろん、これは施設での生活に限らず、たとえばグループホームなどでの生活でも同じことでしょう。

小さいときには親御さんや先生が丁寧に指導していける時期です。この時期に「ぼくにとって必要であり、安心できるもの」というスケジュールを作っていく、それを使った生活ができるようにしていくことが、将来の成人期の生活を支えていくことになると思います。



施設での生活で、問題となる行動の一番の原因は見

本人の居場所を作る

(保護者)

我が家には8歳、6歳、4歳の三姉妹がいて長女が自閉症です。昔から「女三人寄ればなんとやら」と言いますが、その姦(かしま)しいことといったら特に下の2人は遊んでいても喧嘩をしてもキーキーキャアキャアと凄まじいです。

ですが、自閉症の長女にとっての苦痛は私の比ではないはずで、そのうえ、それを叱責する私の大声ありで、たまったものではありません。特にこしばらくは家でも荒れていて、私も頭を抱える毎日でした。

そこで私も一念発起！！家庭での支援を定着すべく遅ればせながらこのたび、部屋の構造化を図ることにしました。PLT教室の先生方や先輩方にアドバイスをいただき、まず手始めに姉妹で共用していたものを撤去し、長女専用の家具を揃えました。

先日、二台の学習机が届いたのですが、長女は自分だけの机に大感激、次女の机の様子を覗き見しつつ、真似してランドセルをかけたたり、本を並べたりと嬉しそうで、そんな様子を見て「自分の居場所」の大切さに気付かされた母でした。

今は「もっと早くにこうしてあげれば良かった」という気持ちでいっぱいです。

後々後悔しないためにも、これからは家庭での支援を頑張っていきたいと思います。

環境の変化に伴って

我が家には、年子の2人の男の子がいます。長男(S・養護学校小2)が自閉症です。

我が家は、Sが入学し学校生活がスタートした4月から、主人が単身赴任することになり一気に環境が変わってしまいました。Sがどのように感じ、どのように大変になるのかドキドキしていましたが入学前に学校と何度も話をする機会をもらい、入学式の前に体育館や教室や下足室など下見をさせてもらったり、入学式のプチリハーサルをさせていただいていたおかげで入学式も混乱する事なく終え、次の日からの学校生活も話し合いの成果がSには必要な構造化をしてくれておりすごく良いスタートを切れました。おかげで学校が大好きな所になったようで落ち着き元気に2年生になった今でも毎日楽しく通っています。家庭でも1ヶ月単位のカレンダーの導入を通園施設時代からしていたおかげで主人が出張に行く日や帰ってくる日など示す事で混乱無く過ごせています。2年生になり担任が変わりましたが、Sにはとても合っていた先生のように出来なかった事が少しずつできるようになっています。

苦手だった冬の体操服(ジャージ)が着れるようになったり偏食大王のSが学芸会(10月)が終わった頃から本当の意味で先生と信頼関係がしっかりとできたようで給食でのやり取り(交換条件がきっかけ)で今まで絶対に口にしてくれなかった野菜が、今は積極的に食べています。おかげで、お母さん

「お母さんすてき」

(保護者)

小2の長男は重度の知的障害を伴う自閉症で、養護学校に毎日元気に通っている。本人が要求する時には、単語やいくつかの2語文の発語はあるが、会話は全く出来ない。独り言が多く、しまじろうのビデオの台詞や童謡をいつも口ずさんでいる。

先日散歩の途中、息子が突然「お母さん、すてき！」と言って、私のほほにキスをしてきた。何事かと驚いたが、思いあたることがある。しまじろうのビデオで、上手な車の運転で危険を回避したしまじろうのお父さんに、お母さんが、「お父さん、すてき！」とほほにキスするシーンがあった。散歩中に車の急ブレーキの音を聞いて、瞬間的にそのシーンを思い出したらしい。動機はどうであれ、かわいいものである。ちゃんと台詞の「お父さん」が、「お母さん」に変わっている。次もするかなと期待していたが、その1回きりでそれからした事は無い。道路では困るが、家の中でならもう一度やってもらってもいいなと思う母である。



(保護者)

担任の先生がなるべくSの苦痛を最小限にしつつも色々な形でSのこだわりを崩してくれ色々な事に落ち着いてチャレンジできています。

始めは親子3人の生活に不安もありましたが、良いのか悪いのか？もうすっかり慣れてしまいました。

私は、友達と小さな会ですがサークル活動をしています。その中で、幼児さんの保護者の方や最近やっと支援の必要な事がわかった通常学級に通っている保護者の方の話を聞いたり、我が家でしていた事や気を付けている事などを話したり子ども達に役立ちそうな教材をアイデアを出し合いながら作ってみたりしています。学校の方は、PTA役員と養護学校の読み聞かせボランティアグループにも所属していて常に学校に顔を出しているの子ども様子をよく見る事ができます。何かあるときもすぐに担任から声をかけてもらえるので安心です。

今は2月にあるピアノの発表会に向けての準備でちょっと忙しいです。ピアノ教室(本当はリトミック)の先生の理解もあり今回初めて挑戦することになったのですが、先生自らSに説明するためにホールの写真などを撮ってきてくださっていてこれから先生と内容を煮詰めていく事になります。

最近では毎日同じ事の繰り返しで、新しい取り組みをしてい



心身障害者扶養共済制度

心身障害者(身体障害者手帳3級以上・知的障害者・精神障害者で自活が困難な方)を扶養している保護者(65歳未満)が加入者となり、一定の保険料掛金(保護者の加入時の年齢により1口3500~13,300円)を納めて、加入者が死亡又は、重度障害者となったときに、心身障害者に年金を支給し、保護者亡き後の心身障害者の生活の安定を図るためのものです。障害者1人につき2口まで加入できます。掛金は、所得税、地方税とも全額所得控除され、年金、弔慰金には所得税がかかりません。

給付金は、1口につき月額20,000円 加入者が生存中に障害者が死亡した場合弔慰金が加入期間により、1口20,000円~100,000円支給されます。

申し込みは各区の福祉・介護保険課

助成、寄付を頂きました皆様、賛助会員の皆様、
ご協力ありがとうございました。心より御礼申し上げます。

2006年12月~2007年3月

助成・寄付

団体(順不同・敬称略)

福岡市NPO活動支援基金(あすみん夢ファンド)

個人(順不同・敬称略)

福澤 昭 / 福嶋 洋子 / 鮫島 哲也 / 鮫島 文子 / 宮川 浩範

賛助会員

団体(順不同・敬称略)

1月 医療法人 望洋会 鮫島病院

個人(順不同・敬称略)

12月 猿川 隆文 猿川 京子 / 安東 剛 / 安東 恵子

1月 馬場 清己 / 馬場 由美子 / 宮川 健二 / 宮川 美智子 / 伊藤 修 / 黒田 ミエ子

山形 利晴 / 坂本 裕志 / 坂本 由香 / 小西 稔 / 小西 香代 / 本村 泰之 / 小松 淳

鮫島 哲郎 / 鮫島 一美 / 鮫島 仁彦 / 鮫島 葉子 / 鮫島 卓也 / 鮫島 ハマ / 鮫島 純治

鮫島 久子 / 鮫島 洋一郎 / 長曾我部 慎二 / 長曾我部 久美 / 田中 カヨ子

2月 森本 啓子 / 作道 由美子 / 前山 直子 / 花井 のぞみ / オン 知重子 / 藤田 理恵子

有馬 美由紀 / 廣瀬 香織 / 鳥越 育代 / 入江 隆文 / 金崎 慶子 / 高尾政代

3月 金崎 一雄 / 吉木 有紀 / 漆間 めぐみ



発行元

特定非営利活動法人 自閉症くらし応援舎 TOUCH

~ 広報部 ~

福岡市東区箱崎1丁目19-9 優箱崎ビル1F 2号

TEL&FAX(092)632-8150

<http://www.npotouch.jp/>

TOUCHでは、2007年4月より、日中活動支援センター「スマイル・ポック」をスタートさせました。現在2名の方にご利用いただいています。

利用者の方のペースに合わせたスケジュールや、構造化された空間を提供していきます。

また、ご利用枠に余裕がありますので、どうぞ右の連絡先へお問い合わせ下さい。